

清音

第251号

発行所 木曾教育会

発行人 宮坂 寛

編集 上松小学校

第139回

木曾教育会総集会を終えて

今年度も木曾教育会員が年に一度、一堂に会して学ぶ合う総集会を無事終えることができましたことにお礼申し上げます。今年度は特に、郡町村会、郡町村教委連絡協議会、郡校長会など各方



開会音楽 合唱「大地讃頌」

面の皆様のご理解とご協力のもと、毎年会員の要望で出されていた普通日開催実施に向け、準備してくださったことにも感謝申し上げます。

例年のように音楽同好会と有志の先生方による開会の音楽は、戦後八十年の本年に相応しく、カンタータ『土の歌』の終曲「大地讃頌」の合唱に始まり、会場全員による島崎藤村先生の「朝」の歌につながり、清々しい気持ちで総集会を始めることができました。音響の良い会場に響き渡る歌声は、全会員が集まる意味を改めて噛みしめる思いがしました。

会員発表では、木曾夏期大学終了後の午後、各学校から道徳の実践事例を持ち



挽野氏による講演会

寄り教師の発問に焦点を当て課題と学びを共有した道徳研究教育委員会の実践発表と、四月より運用が開始された木曾教育会ホームページの会員への周知と今後の充実を図る方向性についてホーム



アイロボットジャパン合同会社
代表執行役員社長 挽野 元 様

ページあり方検討委員会から発表していただきました。

またアイロボットジャパン合同会社社長の挽野元様の「これからの社会の変化と教育の方向性—経営実務者の視点から」と題した講演では、子ども達と日々向き合う私達への力強い応援歌をいただいた思いがしました。特にZ世代、α世代につけてあげべき十個の力という話は、グローバルな視点を持ち経済界の第一線で活躍する挽野先生だからこそその指摘であったと思います。講演後、先生から「コンフォートゾーンを外れたところ、ここに自分の成長機会が宿っています。進んでコンフォートゾーンを外れてみましょう!」という言葉を色紙に残してくださいました。未来を生きる子ども達と向き合う私達の大事な試金石を示してくださいるような講演でした。

いよいよ来年度の木曾教育総集会は、百四十回という大きな節目を迎えます。今年度と同じように会員が一堂に会し学び合う意義のある会になるように、準備を進

めていきたいと思っておりますので宜しく願います。

木曾教育会会長

宮坂 寛(福島小)

木曾地区初任者

研修会より

「温かさと相談することの大切さを感じた時間」

木曾地区初任者研修会に参加し、私は「先生方の温かさ」と「何事も相談することの大切さ」を感じました。

研修会の「二年目の先生方の話」では、二人の先生から昨年度の実践を発表していただきました。その発表の中で、「子どものために」「子どもの願いや思い」という言葉がとても印象的でした。常に「子ども目線」で向き合っている先生方の一言一言に温かさを感じました。実践を聞いていく中で、私は自分自身に問いかけました。「自分は、子どもとまっすぐに向き合っているだろうか?」私は、先生方のお話のおかげでこれまでの経験を振り返ること



初任者による情報交換会

ができ、これからどうという視点で子どもと向き合っているのかということを考えることができませんでした。

また、この視点は授業改善にも生かすことができると感じました。「子どもがどう学ぶのか?」私はこの言葉を聞いて、「児童理解」が頭に浮かびました。私が受け持っている学年は、個性豊かな子どもたちで、一人ひとり多様な考えをもっています。私は、その子どもたちが一人も取り残されず、子ども一人一人が主体的に学習に向き合い、自分なりの学び方で「できた」「わかった」を実感できる授業をしたいという思いがあります。そのためには、児童一

人ひとりの行動や言葉などの様子をしつかり見取るのが大切だと考えます。

子どもたちの「なぜ?」「どうして?」「やってみよう」などの「思い」や「願い」を大切に、今後の授業づくりでは、「児童理解」をより意識していきたいと思っています。

さらに、初任者同士の情報交換会では、日頃の悩みを話し合いました。そこで感じたことは、「悩んだら相談してよい」ということです。私は、悩んだ時、一人で考え込んでしまいがちでした。「相談したいけど申し訳ない。それなら自分で何とかしよう。」という思いながらこれまでやってきました。しかし、情報交換してみると、今年度から教師として働いている先生や他地域などで経験されている先生がいましたが、同じような悩みを持っている先生が多く、ともに共感しながら話していく中で、「相談してもいいんだな」と安心することができました。話をしていく内に、「相談するとこんなに楽になるのか。」話してみると冷静に考えることができる。」な

ど心に余裕をもてるようになりしました。今後、悩みや相談事があったら、「まずは相談してみる」ことを大事にしていきたいと思っています。この研修会を通して、同じ木曾地区の初任者の先生方と、切磋琢磨し合って充実した教師人生を送っていききたいという思いを強くすることができました。

上松小学校 岡田 祐貴

上松小学校 紹介

二十年に一度の大祭

ご神木祭を終えて

六月三日(火)「御杣始祭」が行われ、五・六年生が参加しましたが、なんとこの日はあいにくの大雨。とても寒かったので、残念ながら木が切り倒される前に山を下りることにになりました。学校に帰ってきた後、お弁当をいただきますながら、会議室の大スクリーンでテレビ中継を観ました。すると「おおっ〜!」と、職員室まで聞こえる大歓声が上



町内の「お木曳」の様子

がりました。木が切り倒された瞬間です。大雨の中でしたが、現地に行っていたおかげで、画面越しでも生の臨場感が伝わったようでした。

六月四日(水)は、みんな楽しみにしていた「お木曳」です。前日とはうって変わった青空の元、「よいい、よいい!」「ヨイシヨ、ヨイシヨ、ヨイシヨ!」と練習の成果を存分に発揮できました。

六月五日(木)の芸能祭では、全校で「木遣り歌」を発表しました。子どもたちが大きな口をあけて、一生懸命に歌っている表情が印象的でした。この「御神木祭」を通して、だんだんに気持ちが高まってきていることが、その表情

からよく伝わりました。

六月六日(金) お祭りの最終日には、少し寂しさを覚えながら「御神木」をお見送りしました。紅白のお餅は、上松町のご厚意で、子どもたち全員にいただきました。

この一週間を通して、ご家庭の皆さま、地域の皆さまのご理解・ご協力、温かいご支援のおかげで、子どもたちは上松町の大切な文化を肌で感じる事ができたように思います。

次回のお祭りがある二十年后、大人になった子どもたちの心に、この一週間の思い出がよみがえってきてくれたらうれしく思います。



芸能祭での全校「木遣り歌」